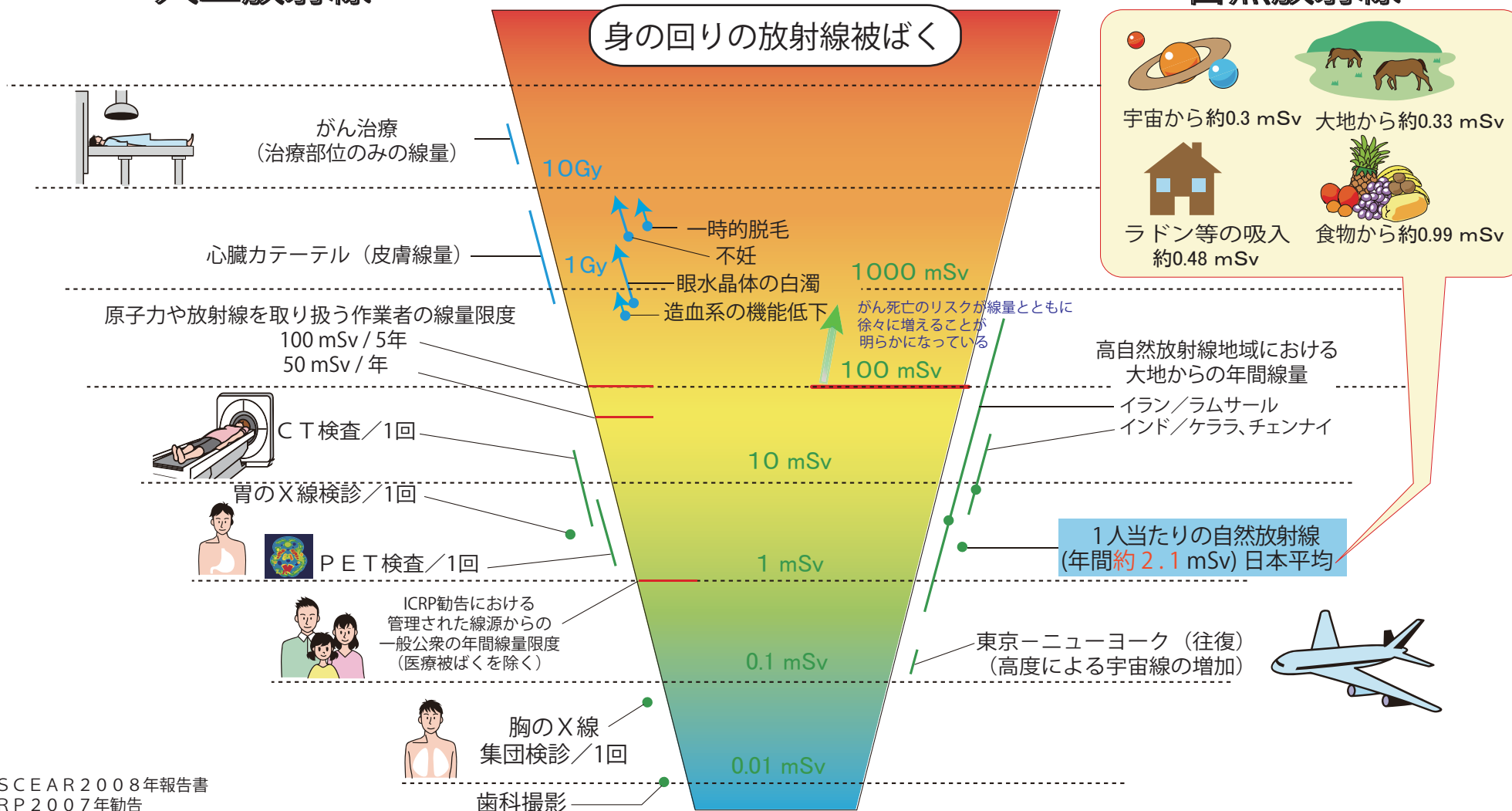


# 放射線被ばくの早見図

## 人工放射線

## 自然放射線



・ UNSCEAR 2008年報告書  
・ ICRP 2007年勧告  
・ 日本放射線技師会医療被ばくガイドライン  
・ 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定)  
などにより、放医研が作成(2013年5月)

【ご注意】  
1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。  
2) 目盛(点線)は対数表示になっています。  
目盛がひとつ上がる度に10倍となります。  
3) この図は、引用している情報が更新された場合  
変更される場合があります。

**【線量の単位】**

各臓器・組織における吸収線量: Gy (グレイ)  
放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりに  
どれくらいのエネルギーを受けたのかを表す物理的な量。

実効線量: mSv (ミリシーベルト)  
臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝性影響の感受性について  
重み付けをして全身で足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。  
各部位に均等に、ガンマ線 1 Gy の吸収線量を全身に受けた場合、  
実効線量で1000 mSvに相当する。

国立研究開発法人 **NIRS**  
放射線医学総合研究所  
<http://www.nirs.go.jp>